

業務・企画系 ～DXの“X(トランスフォーメーション)”の研修～

デジタルを活用した業務改革やDX推進の担う人材(支援者を含む)の育成を目的とした実践型研修です

＜企業を取り巻く現状と課題＞

■IT ユーザー企業(一般企業):

経営やIT環境の急激な変化への素早い対応、担い手となる社内IT人材の確保・育成
⇒システムの内製化や既存人材のリスキリングなどを通じたDXの推進

■IT ベンダー企業(情報系企業):

システム内製化などを背景とした“単なる”開発受託業務の減少
⇒既存の受託案件を提案型に変えていく、企画提案にDXを絡めていく



本研修はITユーザー／ベンダー企業それぞれの課題解決を担うDX人材を育成

(1) 企画系業務基礎素養

将来的に自社の業務改革やDX推進、または客先に対するこれらの提案を担うことが期待される主に若手・中堅人材に対し、企画・業務系の実務で必要な実務基礎素養を育成します。

【B-1】企画系業務基礎素養(業務分析・提案編)

社内外向けの企画提案を演習テーマとした上で、自社や利害関係者の課題整理、それらを取り巻く社会背景の整理、課題解決に向けた取組内容や期待効果の提案書への落とし込みなどの相互議論型のケーススタディを通じ、業務分析や企画提案の実践的な経験値を蓄積します。

前提:特になし

科目名(定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【B-1】業務分析・提案編	3h×4回(12h) + 課外実習	8/26(火)、9/5(金)、9/12(金)、 <u>9/26(金)</u> 最終回の成果発表会は集合開催

○課外実習:具体的なテーマを持つ参加者はそのテーマ、特にテーマを持たない方は講師提示テーマを基にした個人または他社との混合チームでの演習を行います。

【B-2】企画系業務基礎素養(環境分析編)

過年度から高い評価をいただいている「ビジネス変革人材育成」研修の最初に行う「統合環境分析(SWOT 分析)(※)」だけを取り出し短期集中型で行う研修です。SWOT 分析は企画系業務の基本中の基本であり、実際に手を動かす中での自社分析力の向上、自社を取り巻く“物の見方の変革”を目指します。

前提:特になし

科目名(定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【B-2】環境分析編	3h×4回(12h) + 課外実習	1/16(金)、1/23(金)、2/6(金)、 <u>2/13(金)</u> 最終回の成果発表会は集合開催

○課外実習:原則として自社のSWOT分析を行っていただきます。

○期待アウトプット:各者のSWOT分析、クロスSWOT分析 など

(※)SWOT 分析(統合環境分析):企業を取り巻く内外環境を強み、弱み、機会、脅威の4つで分析する経営フレームワーク

(2)DX 実務(改善型 DX)

生産性向上や業務効率化などの現状業務の改善を主眼としたDX推進の考え方やスキルを育成します。主に企業内のDX推進やデジタル担当者を主な受講対象とします(業種・業界・企業規模は問わず)

DXを“業務”という文系的な視点で捉えた研修である点が独自の特色となっており、ITユーザー企業だけでなくITベンダーや産業支援機関の職員などのDX推進支援者が知見を深める場としてもふさわしい研修です。

【X-1】DX 実務者育成研修

自社(または支援先企業)における実業務の課題発掘や解決策の立案の実体験を通じ、「業務の目線から追ったDX」の理解を深めます。「何に”気づいて”どのように”デジタル活用を推進するのか」という、DX推進人材に不可欠なDXの“X”の実務能力を育成します。

前 提:特になし

課外実習:DX推進企画案(社内外向け説明資料等)の策定

科目名(各定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【X-1】 DX推進実務者育成	3h×6回(18h) + 課外実習	6/24(火)、7/1(火)、 <u>7/8(火)</u> 、7/15(火)、7/25(金)、 <u>8/1(金)</u> 中間及び最終回(成果発表会)は集合開催(※下線) 最終回はゲスト講師として企業の経営層経験者を招聘予定

【Y-1】DX 基礎研修

DX推進者として身につけるべき実務基礎知識を学習します。経済産業省の「デジタルスキル標準」「DXリテラシー標準」を実務的観点から紐解く形で学ぶと共に、各受講者に関連する具体的な“デジタル商品(クラウドサービスやパッケージ等)”を取り上げ、その“使える”“使えない”を判断するポイントなども学びます。

曖昧で分かりにくいとされる“DX”という概念の本質を理解し「自社なりのDX」のきっかけを形成します。

前 提:特になし

課外実習:なし

科目名(各定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【Y-1】DX基礎研修	3h×3回(9h)	10/21(火)、10/28(火)、11/11(火) 完全オンライン研修

※本研修では課外実習や発表会の開催などはありません(ディスカッションなどを含め全て研修時間内で完結)

※本研修は実践型で開催する【Y-2】研修に対応する基礎研修にもなります。

【Y-2】DX ソリューション企画研修 NEW

DXツールを使った課題解決(ソリューション)を学びます。“DX関連のクラウドサービス”や“ソフトウェア商品”などのITツールを理系的な視点で機能や技術面から見るのではなく、文系的な視点(ツールの機能をどう実務に生かすのか)から見たソリューションの企画を実践します。

前 提:「DX基礎研修」レベルのDXに関する基礎知識

課外実習:DXソリューション企画案(社内外向け説明資料等)の策定

科目名(各定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【Y-2】 DXソリューション企画研修	3h×3回(9h) + 課外実習	11/18(火)、12/2(火)、 <u>12/19(金)</u> 最終回の成果発表会は集合開催(※下線)、ゲスト講師としてIT商品販社の実務家を招聘予定

<【X-1】【Y-2】の課外実習について>

- 原則として実テーマ(自社または客先の業務課題やデジタル化テーマ)があることを前提に進めます。
- テーマ自体は身近なテーマで大丈夫です(“紙のデジタル化”“手作業のIT化”などでもOK)。身近なテーマは成果にもつながりやすく、DX推進の基本としても実は非常に重要です。

(3)事業企画(変革型 DX)

DX の“X”を“改善”ではなく本来の“変革”の意味で捉えた際の“デジタルとビジネスモデル”の変革について、事業内容の企画から事業化までの一連のプロセスを体系的/実践的に学びます。

【Z-1】ビジネス DX 人材育成

商品、サービスなどの新事業展開や既存事業の事業変革をテーマとした自社の実ビジネスの企画検討を行います。社内外の環境分析からビジネスアイデアの検証、DXやデジタル的知見も踏まえた事業企画案策定、企画提案書策定までの新事業創出に必要な全プロセスを研修の中で実践します。

将来的に各企業の経営管理の中核を担うことが期待される中核人材に不可欠な「実践的なビジネス感覚」や「DX 推進型事業の創出」の経験値を形成します。

実施テーマ(定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
環境分析と事業企画	3h×12 回	9/2(火)、9/9(火)、9/25(木)、 10/3(金)
ビジネスモデル構築	(36h)	10/10(金)、10/17(金)、10/24(金)、 11/7(金)
マーケティング戦略	+ 課外実習	11/14(金)、11/28(金)、12/5(金)、 12/12(金)

太字：集合研修で開催（任意参加の懇親会も開催予定）

○期待アウトプット：事業アイデアシート、事業計画書、サービスチラシ／カタログの策定など

⇒各自の参加目的や狙いに応じたアウトプットを形成していきます。デジタル絡みでは、例えば「サブスク管理」などが新しいビジネス DX につながるキーワードといえます。

○本研修は事業変革や変革型 DX に全振りで開催します。既存事業の業務効率化や生産性向上などを意図する場合は「DX 実務研修」への参加を検討願います。

各研修について(重要)

- 各企業の多忙な中核人材の参加を想定しているため、全ての研修において「**業務都合等による遅参・欠席**」、「**集合研修開催時のオンラインによる参加**」は柔軟に対応します。研修の目的をアウトプットの形成(課外実習)に置くため、研修出席と研修成果は必ずしも直結しません。
- 本研修は研修業者によるケーススタディ主体のパッケージ化された研修ではありません。必要最小限の研修時間で最大限の成果をお持ち帰りいただけるよう、**貴重な研修の時間は“ディスカッションに全振り”とし、各自の演習はあえて課外実習として外出し**にしていますのでご理解ください。
- 課外実習の分量は一律ではなく各自の“かけられる時間”に配慮し個別に設定します。例年、“紙1枚”の企画概要から相当量の“企画提案書”まで多彩なアウトプットが形成されています。

■研修受講環境について

オンライン研修は Zoom/Slack を利用します。「業務・企画系」の各研修は双方向のディスカッション主体型研修であるため、研修内で参加者に発言いただく機会も多々あります。**参加にあたっては社内会議室やご自宅等の専用の受講場所からの参加を原則とし、共用オフィスからのヘッドセットを用いた参加は原則不可とします。**

1社から複数以上のメンバーで参加の場合は、社内会議室に集まっての参加を推奨します(社内会議室をサテライト拠点とみなして研修を運営)。ただし在宅勤務を推奨している会社はこの限りではありません。

■守秘義務・知財の扱い

各社アウトプットの相互評価を行う関係上、研修の中では相互に各社の情報を共有することが必須となりますので、あらかじめその旨をご理解の上で参加ください(固有名詞などを匿名化していただくことは可)。また、研修内で相互に知り得た情報の研修以外での利用は不可である旨をご理解いただくことが参加条件となります。

◆主 催：一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(MISA)(宮城県委託事業)

◆対象：宮城県内で事業を展開している企業（MISA 会員の有無／業界は問わず）

※本事業は IT 企業だけでなく、ものづくりなどを含む幅広い業界を対象としたデジタル人材育成事業です。

※宮城県内に拠点を有し事業を行っている企業であることが企業としての参加要件となります。

（MISA 会員の有無、企業規模、本社所在地、実際の参加者の居住地や勤務地自体は問いません）

◆受講料：無料（宮城県委託事業のため）

◆場所：オンライン（Zoom＋Slack の併用） 集合研修は仙台市中心部（受講の方に別途案内）

■講師（ファシリテーター）

- ・一般社団法人宮城県情報サービス産業協会（MISA） 事務局 企画プロデューサー 庄子 栄光
（宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家）
- ・株式会社仙台情報サービス 代表取締役 佐藤 元
（宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家、宮城県中小企業等デジタル化支援事業補助金アドバイザー）

⇒各研修は各企業の「環境分析」、「現状の課題そのもの掘り下げ」、「事業機会の掘り起こし（企画）」などから行う点が特色です。これまで気が付かなかった自社の強みや新たな方向性を見出し、これらに気づきを持つことが研修の大きな狙いの一つです。この手の研修は経営の専門家等に依頼するのが難しいため、MISA 事務局の本委託事業担当者の直営研修とし、実務的な観点から研修を展開することとしております。

<経済産業省「デジタルスキル標準」との関係について>

（2）DX 推進支援等実務 及び （3）事業企画（変革型 DX）で行う各研修は、経済産業省の「デジタルスキル標準」の中で定義された“DX 推進スキル標準”において、「ビジネスアーキテクト」「サービスデザイナー」の内容に該当します。

（2）は既存業務の高度化や社内業務の高度化・効率化を主眼とした研修

（3）は新規事業の創出や抜本的な事業見直し（事業変革）を主眼とした研修

⇒どちらのスタンスを重視するかによって研修の選択が変わってきます。

